

豊富町地域公共交通計画

【素案】

令和8年2月

豊富町

目次

1. はじめに.....	1
2. 基本的な方針.....	2
2-1 現状診断.....	2
(1) 人口の推移.....	2
(2) 町内の公共交通の現状.....	3
(3) 利用者ニーズの状況.....	10
2-2 現状と課題.....	13
(1) 広域移動(広域生活圏)の現状と課題.....	13
(2) 町内移動の現状と課題(通勤・通学、買物、通院、温泉等).....	13
(3) 運行事業者の現状と課題(現在の町内移動を担っている事業者).....	13
3. 計画の位置づけと区域・期間.....	14
3-1 計画の位置づけ.....	14
(1) 本計画の位置づけ.....	14
(2) 公共交通の位置づけ.....	15
3-2 計画区域.....	15
3-3 計画の期間.....	15
4. 地域公共交通計画の策定.....	16
4-1 基本理念と基本方針.....	16
(1) 豊富町地域公共交通計画の基本理念.....	16
(2) 豊富町地域公共交通計画の基本方針.....	17
(3) 公共交通の機能分担と役割、確保・維持策.....	18
4-2 定量的な目標の設定.....	20
(1) 評価指標設定の考え方.....	20
(2) 定量的な評価指標・目標値.....	20
4-3 目標を達成するために行う公共交通施策及び実施主体の設定.....	21
(1) 基本方針1 モビリティデータを活用した生活・交流を支える広域移動の確保・維持.....	22
(2) 基本方針2 町民の生活実態に即した町内移動を支える移動資源の確保・維持.....	23
(3) 基本方針3 持続可能な地域交通の確保に向けた体制の充実.....	26
4-4 計画の推進.....	28
(1) 計画の進行管理.....	28
(2) 達成状況の評価.....	30

1. はじめに

本町は北海道宗谷総合振興局管内の中西部に位置し、稚内市、幌延町、猿払村と隣接しており、人口 3,465 人(令和 7 年 3 月末現在)、総面積 520.7 km²となっています。また道路網は、国道 40 号、幌富バイパス、豊富バイパス及び道道 13 路線により主要な道路網が形成され、また国道 40 号と主要道道豊富浜頓別線の交差点及び JR 豊富駅を中心に市街地が形成されています。

公共交通は、鉄道として JR 北海道の宗谷本線が通っており、豊富駅と兜沼駅が設置され、稚内方面、旭川方面へのアクセスが可能です。路線バスは沿岸バス(株)の運営により地域間幹線系統の幌延留萌線と接続する豊富幌延線及び豊富羽幌線、並びに高速バスとして特急はぼろ号(札幌方面)の 3 路線が運行しています。

また町内の有償運送は、一般財団法人豊富町観光協会が運営する豊富温泉号が予約制により豊富温泉と JR 豊富駅の間を 1 日 2.5 往復が運行しています。また、豊富町運営市町村有償旅客運送が旧沿岸バスサロベツ線の代替路線として、予約制により稚内地区と JR 豊富駅の間を 1 日 4 往復が運行するとともに、社会福祉法人豊富町社会福祉協議会により町内、稚内市及び名寄市間において福祉有償運送が運行しています。

その他、無料の送迎交通としては、高齢者買物支援バスが 1 路線、診療所受診バスが 4 路線、スクールバスの一般混乗が 9 路線運行しています。これら公共交通等が確保されているものの、複数の交通手段が重複するとともに、高齢者など交通弱者の生活交通に対応する、効率的で利便性の高い地域公共交通を確保していくことが課題となっています。

以上を踏まえ、本町の地域公共交通の現状・問題点、課題の整理を行い、総合計画等とのまちづくり計画や令和 5 年度に策定された宗谷地域公共交通計画と連携が図られた、持続可能な公共交通ネットワークを一体的に形づくる「豊富町地域公共交通計画」を策定します。

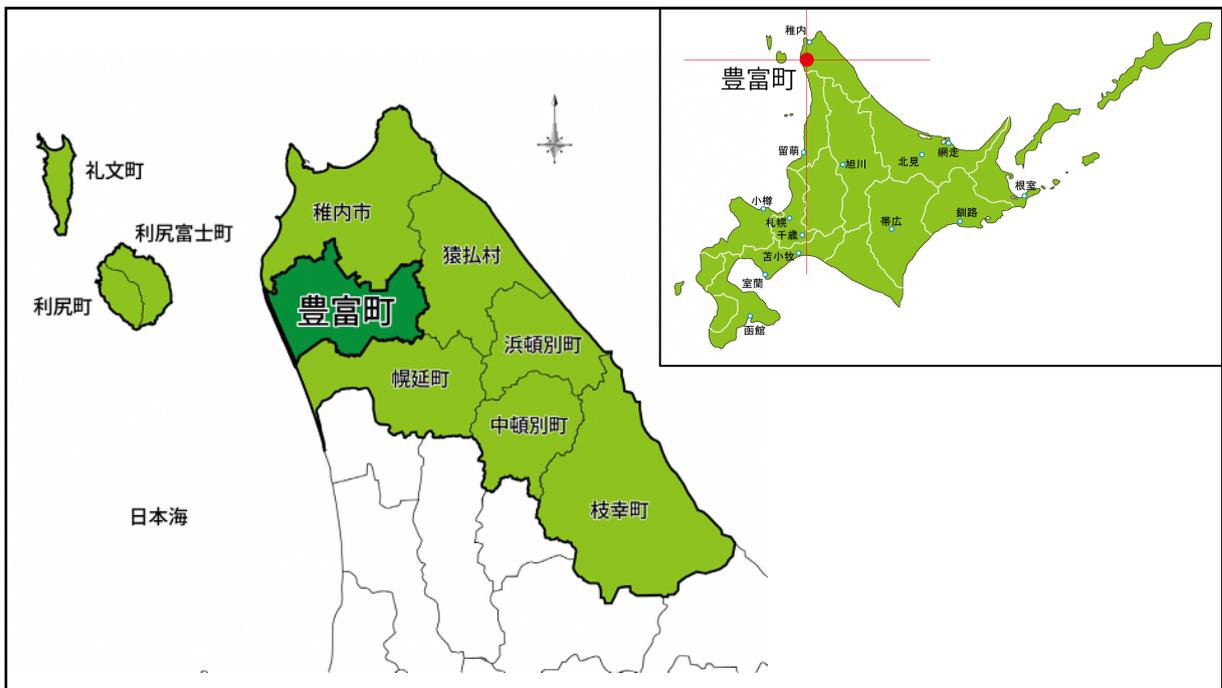


図 1-1 位置図

2. 基本的な方針

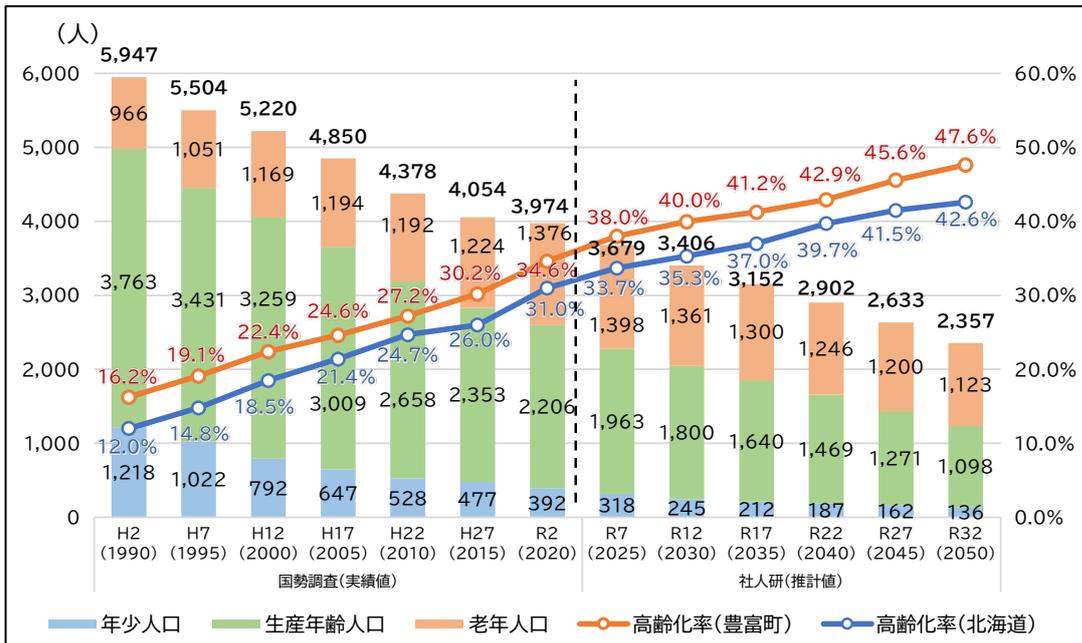
2-1 現状診断

(1) 人口の推移

ア. 人口の推移・推計

人口は令和2年時点で3,974人となっており、平成2年の5,947人から30年間で約2千人減少し、今後も減少傾向が続くと予測されています。また、高齢化率は令和2年時点で34.6%となっており、令和27年には45%を上回ると予測されています。

なお、北海道全体の高齢化率との比較では、令和2年時点で3.6ポイント本町が上回っていますが、令和32年には5.0ポイント本町が上回ることとなり、その差は広がる予測となっています。



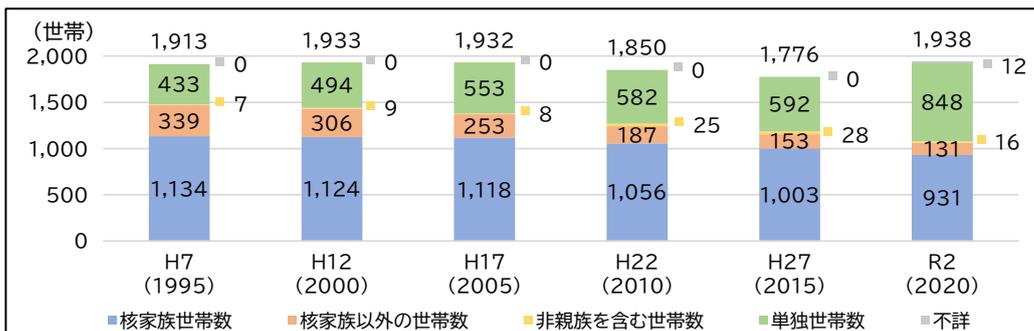
資料：国勢調査(1990～2020)、国立社会保障・人口問題研究所(2025～2050)

図 2-1 総人口及び年齢3区分人口の推移と将来推計

イ. 家族構成の推移

世帯数は、平成22年から平成27年にかけて減少しましたが、令和2年には1,938世帯まで増加しています。

その中の家族類型としては、核家族世帯数が平成22年から令和2年にかけて1,056世帯から931世帯に減少し、単独世帯数は582世帯から848世帯に増加しています。



資料：国勢調査

図 2-2 世帯数の推移

(2) 町内の公共交通の現状

ア. 全体

鉄道は、JR宗谷本線が運行し、町内には豊富駅、兜沼駅の2駅が設置されています。

バスは沿岸バス(株)の1社が運行し、都市間を結ぶ高速バスは、豊富町と札幌市を結ぶ特急はぼろ号が運行し、路線バスは豊富羽幌線、豊富幌延線の2路線があります。

町内の有償運送は、豊富駅と豊富温泉間を運行する豊富町観光協会豊富温泉号、豊富市街地・稚咲内地区間を運行する予約型乗合交通の町営ワゴン豊富稚咲内線、町内・稚内市・名寄市間を運行する福祉有償運送があります。

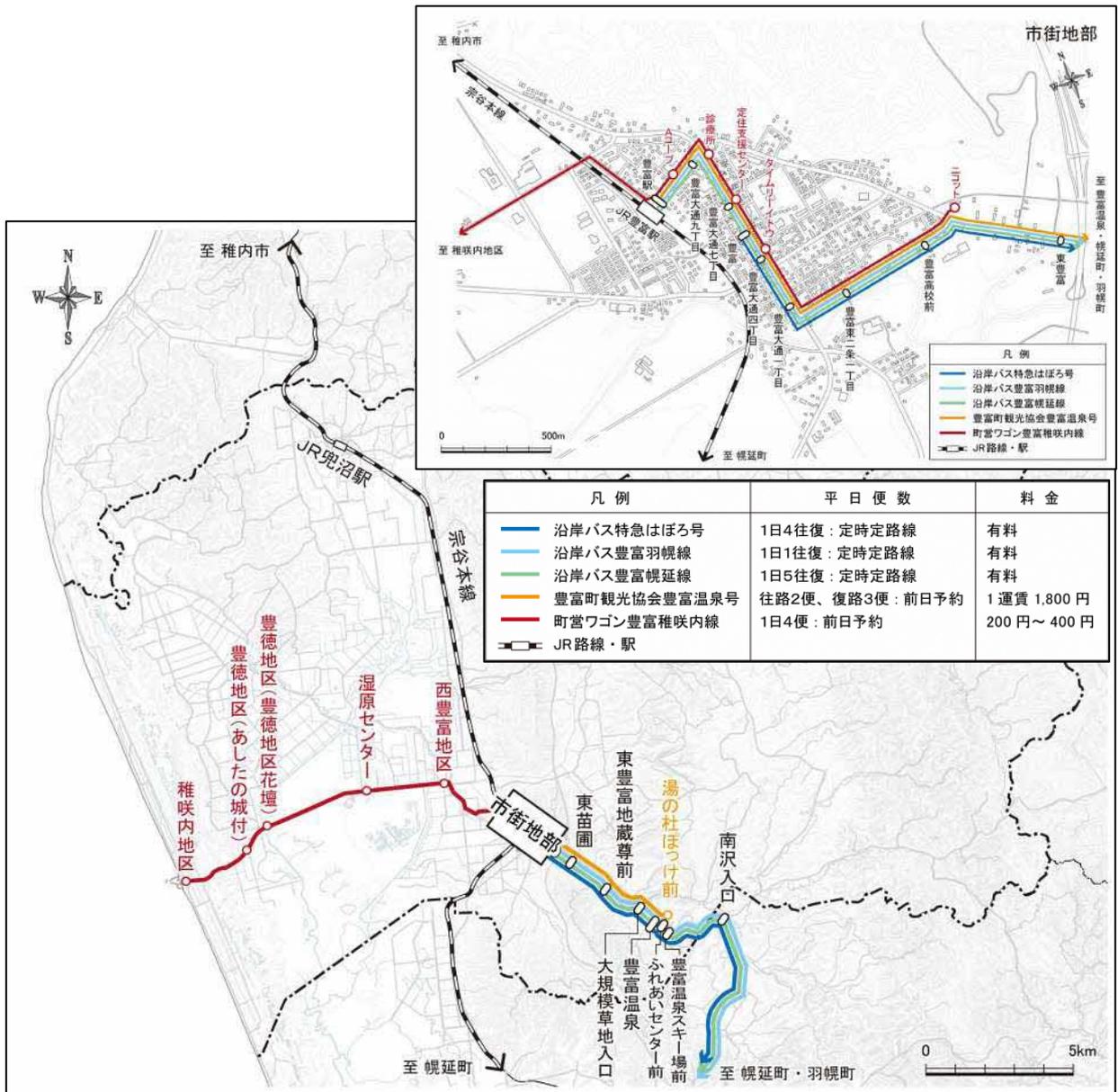


図 2-3 豊富町の公共交通網（全町域）

イ. 路線バス

○ 運行状況

路線バスは、沿岸バス(株)により豊富幌延線が豊富駅から幌延深地層研究センター前の間を平日1日あたり10便、豊富羽幌線が豊富駅から羽幌ターミナルの間を平日1日あたり2便運行しています。

表 2-1 路線バスの運行状況

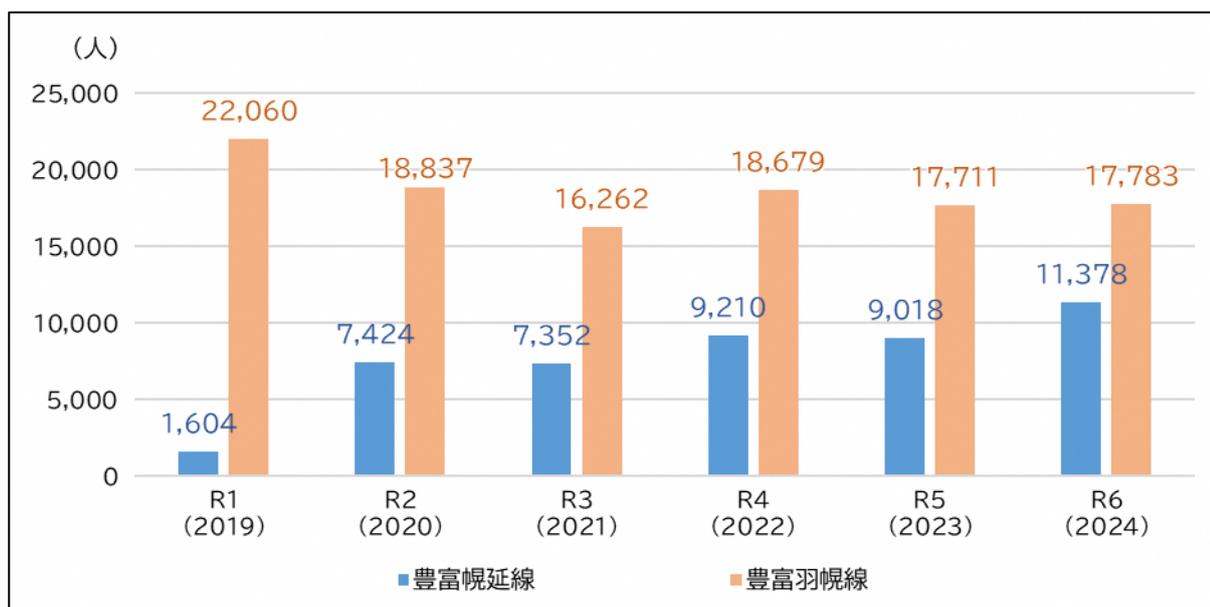
運行事業者	路線名	始発	終点	平日	土日祝	所要時間
				便数	便数	
沿岸バス(株)	豊富幌延線	豊富駅	幌延深地層研究センター前	5	3	約 19 分
		幌延深地層研究センター前	豊富駅	5	3	
	豊富羽幌線	豊富駅	羽幌ターミナル	1	1	約 2 時間31分
		羽幌ターミナル	豊富駅	1	1	

資料:沿岸バス(株)(令和7年4月1日ダイヤ改正)、サロベツ交通(株)

○ 輸送人数

輸送人数は、豊富幌延線が令和6年時点で11,378人となっており、令和2年から増加傾向にあります。

豊富羽幌線は新型コロナウイルス感染症の影響等もあり、令和3年まで減少していましたが、その後は増減を繰り返し、令和6年には17,783人となっています。



資料:沿岸バス(株)

図 2-4 路線バスの輸送人数の推移

○ 停留所乗降人数及び区間人数

平均停留所乗降人数は、「ふれあいセンター」の往路が5.4人/日と最も多くなっています。

区間別人数は、「豊富高校前」と「豊富温泉」の間の往路が12.9人/日と最も多くなっています。



図 2-5 路線バスの停留所別乗降人数・区間人数（令和 6 年度） 資料:沿岸バス(株)

○ 収支

【豊富幌延線】

運行費用は令和4年から増加傾向にありましたが、令和6年時点で11,941千円となっており、前年度より242千円減少しています。運行収入は前年度より増加し、3,557千円となっています。それにより、豊富町を含めた市町村補助金が経年的に減少しています。

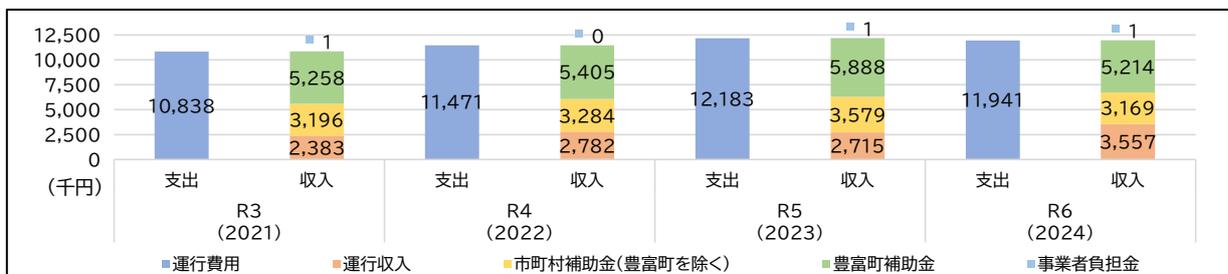


図 2-6 豊富幌延線の収支の推移

【豊富羽幌線】

資料:沿岸バス(株)

運行費用は令和4年から増加傾向にありましたが、令和6年時点で20,688千円となっており、前年度より374千円減少しています。運行収入は前年度より増加し、5,889千円となっています。豊富町を含めた市町村補助金は前年度より減少しています。

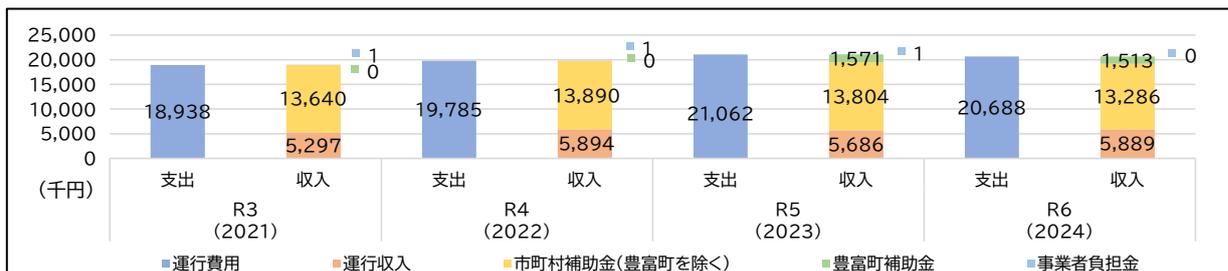


図 2-7 豊富羽幌線の収支の推移

資料:沿岸バス(株)

ウ. 高速バス

○ 運行状況

高速バスは、豊富町と札幌市を結ぶ特急はぼろ号が1日8便運行しています。

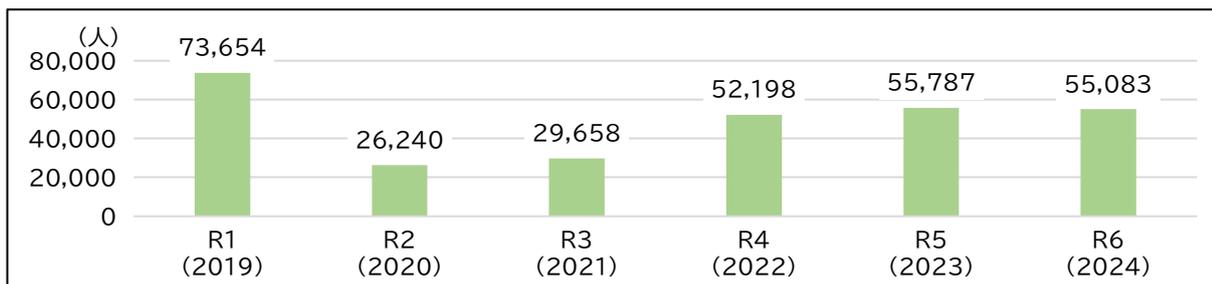
表 2-2 高速バスの運行状況

運行事業者	路線名	始発	終点	全日	所要時間
				便数	
沿岸バス(株)	特急はぼろ号	豊富	札幌駅前 32 のりば	4	約 5 時間 10 分
		札幌駅前 32 のりば	豊富	4	

資料:沿岸バス(令和7年4月1日ダイヤ改正)

○ 輸送人数

輸送人数は、令和4年から増加・回復傾向にあります。令和6年時点では55,083人となり、前年度より704人減少しています。



資料:沿岸バス(株)

図 2-8 特急はぼろ号の輸送人数の推移

エ. 鉄道

○ 運行の状況

本町には、豊富駅と兜沼駅の2つの駅があります。豊富駅は上下合わせて13便、兜沼駅は上下合わせて7便が運行しています。

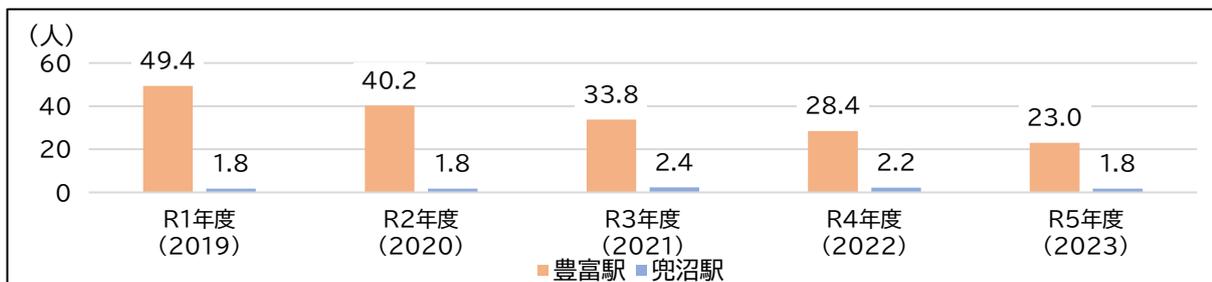
表 2-3 鉄道の概要

運行事業者	路線名	駅名	終点	全日		
				便数	始発時刻	終発時刻
JR 北海道	宗谷本線	豊富駅	稚内	6	7:18	23:07
			旭川・名寄	7	6:08	21:03
		兜沼駅	稚内	3	7:33	19:14
			旭川・名寄	4	5:55	20:49

資料:JR 北海道

○ 乗車人員

豊富駅の1日平均乗車人員は、令和元年度から減少傾向にあり、令和5年度時点で23人となっています。兜沼駅は普通列車のみの停車駅のため、利用者は少ない状況となっています。



資料:JR 北海道

図 2-9 特定調査日に基づく駅別乗車人員 (1日平均) の推移

オ. 自家用有償運送・福祉有償運送

○ 運行状況・概要

自家用有償運送として、豊富駅と豊富温泉間を結ぶ豊富町観光協会豊富温泉号が平日1日あたり4便、予約型乗合交通の町営ワゴン豊富稚咲内線が平日1日あたり8便運行しています。

また、高齢者や障がい者が対象の福祉有償運送は自宅ー町内・稚内市・名寄市の病院間を運行しています。

表 2-4 自家用有償運送の運行状況

運行事業者	路線名	始発	終点	平日	土日祝	所要時間
				便数	便数	
豊富町	町営ワゴン 豊富稚咲内線	豊富駅	稚咲内地区	4	4(日曜 運休)	約 48 分
		稚咲内地区	豊富駅	1	1(日曜 運休)	約 50 分
		稚咲内地区	ニコット	3	3(日曜 運休)	約 50 分
豊富町観光 協会	豊富町観光協 会豊富温泉号	豊富温泉	豊富駅	2	3	約 30 分
		豊富駅	豊富温泉	2	2	約 30 分

運転手(サロベツ交通)	全7人(内 2 種免許 60 代:1 人、70 代:2 人・有償運送講習 70 代:4 人)
-------------	--

資料:豊富町 HP、豊富町観光協会 HP

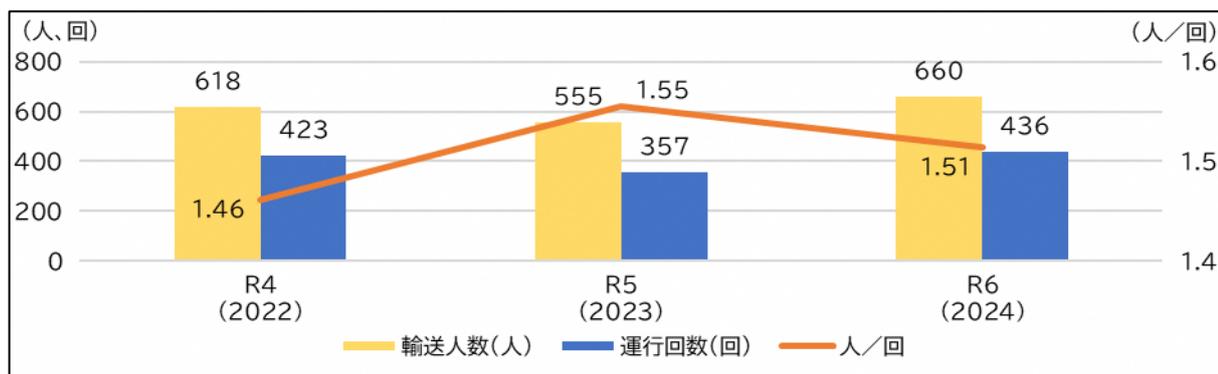
表 2-5 福祉有償運送の運行概要

項目	内容	運転手
主体	社会福祉法人 豊富町社会福祉協議会	全5人 (40 代:2 人、50 代:2 人、60 代:1 人) ※診療所巡回バス、高齢者買物支援バス を含め運転
対象	公共交通機関を単独で利用することが困難な 高齢者や障がい者	
移動区間	自宅ー病院間 (主に町内、稚内市、名寄市の医療機関までの 送迎)	

○ 輸送人員

【町営ワゴン豊富稚咲内線】

令和6年の輸送人数は、前年度より18.9%増の660人となっています。令和6年の運行1回あたり平均輸送人数は1.51人となっています。

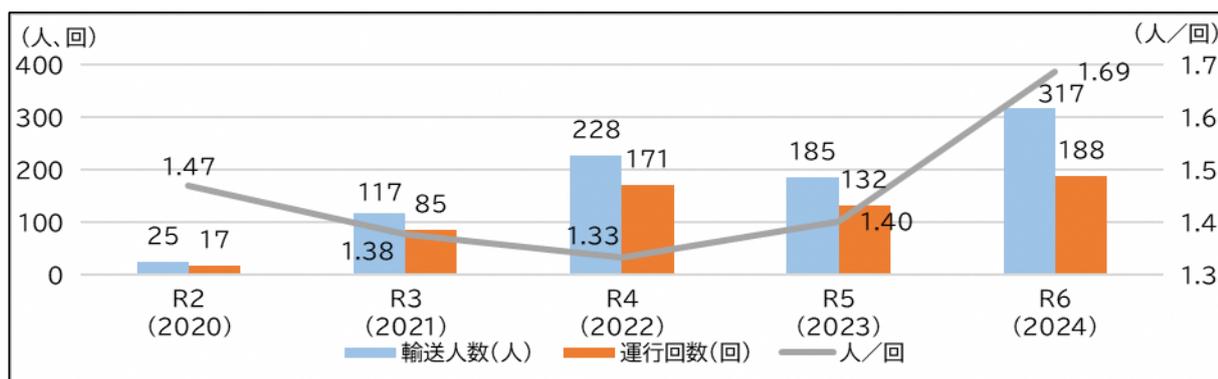


資料:豊富町

図 2-10 町営ワゴン豊富稚咲内線の輸送人数の推移

【豊富町観光協会豊富温泉号】

輸送人数は令和5年に一時的に減少しましたが、令和6年が317人と増加傾向を示しています。令和6年の運行1回あたり平均輸送人数は1.69人となっています。

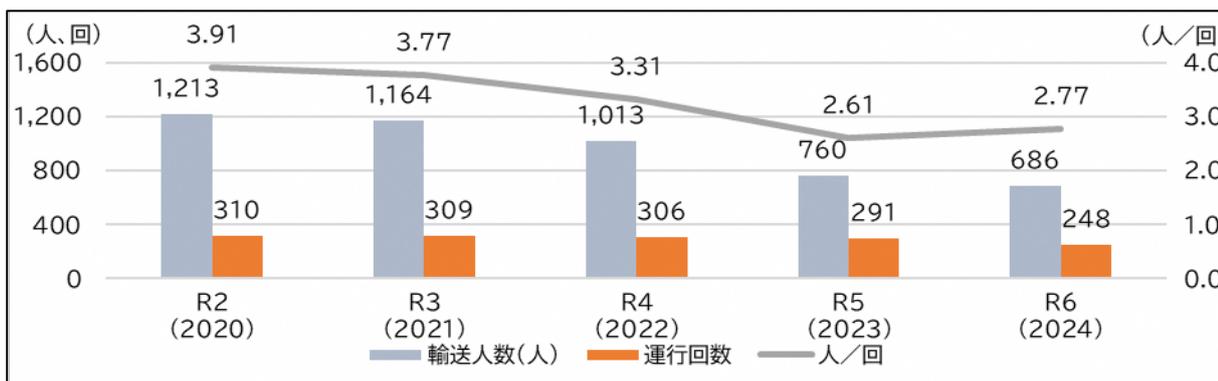


資料:豊富町

図 2-11 豊富町観光協会豊富温泉号の輸送人数の推移

【福祉有償運送】

輸送人数は減少傾向にあり、令和6年で686人となっています。令和6年の運行1回あたり平均輸送人数は2.77人となっています。



資料:社会福祉法人 豊富町社会福祉協議会

図 2-12 福祉有償運送の輸送人数の推移

カ. 公共交通等の維持費用

路線バス等公共施設の運行等を維持するために必要な費用を総括すると、下表のとおりとなります。豊富町負担額は、令和3年度以降増え続け、令和6年度は約31,000千円となっています。

表 2-6 公共交通等の維持費用（令和6年度）

【有償運送事業】 上段:単位 千円、下段:構成比

種別	バス路線名	バス会社等	運行費用		運行収入				
			経常費用 A	経常収益 B1	国・道補助金 B2	豊富町 B3	その他市町村 B4	事業者負担額 B5	計 B1~B5
市町村単独補助路線	豊富羽幌線	沿岸バス	11,941	3,557	0	5,214	3,169	1	11,941
			1.00	0.30	0.00	0.44	0.27	0.00	1.00
	豊富幌延線		20,688	5,889	0	1,513	13,286	0	20,688
			1.00	0.28	0.00	0.07	0.64	0.00	1.00
	小計			32,629	9,446	0	6,727	16,455	1
			1.00	0.29	0.00	0.21	0.50	0.00	1.00
自家用有償運送	町営ワゴン豊富稚咲内線	豊富町	5,731	245	3,595	1,891	0	0	5,731
			1.00	0.04	0.63	0.33	0.00	0.00	1.00
	豊富温泉号	豊富町観光協会	394	338	0	0	0	56	394
			1.00	0.86	0.00	0.00	0.00	0.14	1.00
	福祉有償運送※	豊富町社会福祉協議会	3,066	1,261	0	1,805	0	0	3,066
			1.00	0.41	0.00	0.59	0.00	0.00	1.00
	小計			9,191	1,844	3,595	3,696	0	56
			1.00	0.20	0.39	0.40	0.00	0.01	1.00
合計			41,820	11,290	3,595	10,423	16,455	57	41,820
			1.00	0.27	0.09	0.25	0.39	0.00	1.00

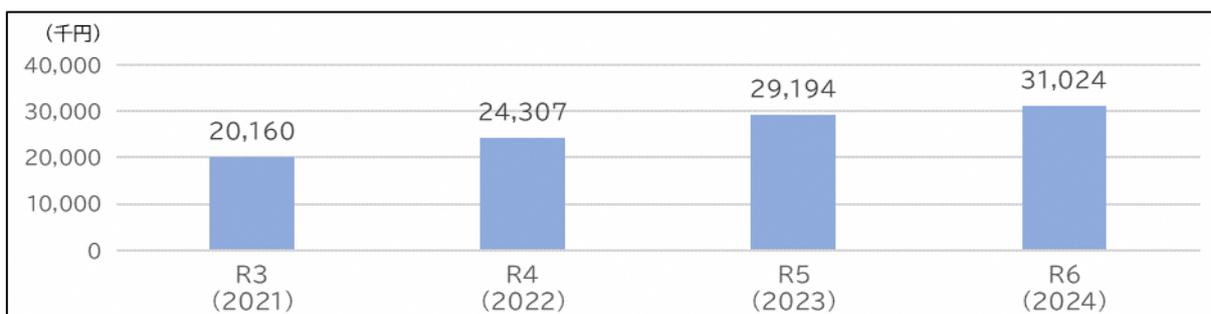
【無料送迎事業・交通支援事業】 上段:単位 千円、下段:構成比

種別	バス路線名	バス会社等	運行費用		運行収入				
			経常費用 A	経常収益 B1	国・道補助金 B2	豊富町 B3	その他市町村 B4	事業者負担額 B5	計 B1~B5
無料送迎事業	豊富温泉利用ワゴン	豊富町	2,225	0	0	2,225	0	0	2,225
			1.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	1.00
	診療所巡回バス※	豊富町社会福祉協議会	2,136	0	0	2,136	0	0	2,136
			1.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	1.00
	高齢者買物支援バス※	豊富町社会福祉協議会	5,623	0	0	5,623	0	0	5,623
			1.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	1.00
	スクールバス	豊富町教育委員会	60,305	0	54,905	5,400	0	0	60,305
1.00			0.00	0.91	0.09	0.00	0.00	1.00	
小計			70,289	0	54,905	15,384	0	0	70,289
			1.00	0.00	0.78	0.22	0.00	0.00	1.00
交通補助事業	温泉利用無料バス券	豊富町	2,697	0	0	2,697	0	0	2,697
			1.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	1.00
	高齢者ハイヤー券		2,280	0	0	2,280	0	0	2,280
			1.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	1.00
	重度肢体不自由者等助成		214	0	0	214	0	0	214
			1.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	1.00
	兜沼JR利用助成		26	0	0	26	0	0	26
1.00			0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	1.00	
小計			5,217	0	0	5,217	0	0	5,217
			1.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	1.00
合計			75,506	0	54,905	20,601	0	0	75,506
			1.00	0.00	0.73	0.27	0.00	0.00	1.00

【有償運送事業+無料送迎事業・交通支援事業】 上段:単位 千円、下段:構成比

種別	バス路線名	バス会社等	運行費用		運行収入				
			経常費用 A	経常収益 B1	国・道補助金 B2	豊富町 B3	その他市町村 B4	事業者負担額 B5	計 B1~B5
路線バス+町内送迎交通(含むハイヤー助成制度)			117,326	11,290	58,500	31,024	16,455	57	117,326
			1.00	0.10	0.50	0.26	0.14	0.00	1.00

資料:福祉有償運送、診療所巡回バス及び高齢者買物支援バスの支出収入の合計額を輸送人数で案分して作成



資料:豊富町

図 2-13 豊富町負担額の推移

(3) 利用者ニーズの状況

ア. 調査の概要

○ 目的

公共交通アンケート調査の目的は、公共交通を含めた生活交通の実態及び公共交通の利用者ニーズを把握することにより、地域公共交通計画立案の基礎データを収集することを目的とします。

○ アンケートの概要

アンケート調査は、住民アンケート調査、豊富高校アンケート調査及び豊富温泉来訪者アンケート調査を行いました。

アンケート調査の概要は下表のとおりです。

表 2-7 アンケート調査の概要

調査の種類	各アンケート調査の概要
住民アンケート調査	【個人属性】 ・居住地域、年齢、性別、職業、運転免許証 【交通実態及び要望】 ・車の保有状況、運転への不安、便利な公共交通の利用、外出日数、公共交通の利用状況、公共施設等のアクセス状況 【その他公共交通についての意見】
豊富高校アンケート調査	【個人属性】 ・居住地域、学年、性別、部活・サークルの所属、活動曜日、帰宅時間帯 【交通実態】 ・登下校の交通手段、保護者等の送迎理由、公共交通の利用状況、公共施設等のアクセス状況 【その他公共交通についての意見】
豊富温泉来訪者アンケート調査	・利用した宿泊施設、来訪目的、滞在期間(全行程・豊富町)、地域への交通手段(一次交通)、豊富温泉への交通手段(二次交通)

○ 配付・回収結果

アンケートの配付・回収結果は下表のとおりです。

表 2-8 アンケート調査の配付・回収結果

調査の種類	配布数	回収数
住民アンケート調査	1,850 件	365 件(回収率 19.7%) うち Web 回答数 111 件 個人回答数 542 人(1.48 人/件)
豊富高校アンケート調査	56 件	52 件(回収率 92.9%)
豊富温泉来訪者アンケート調査	200 件	57 件(回収率 28.5%)

イ. 調査結果

○ 住民アンケート調査

【自宅まで行く便利な公共交通の利用】

「⑦75～84歳」と「⑧85歳以上」において「①利用する」と「②不安時は利用」の割合が高くなっています。

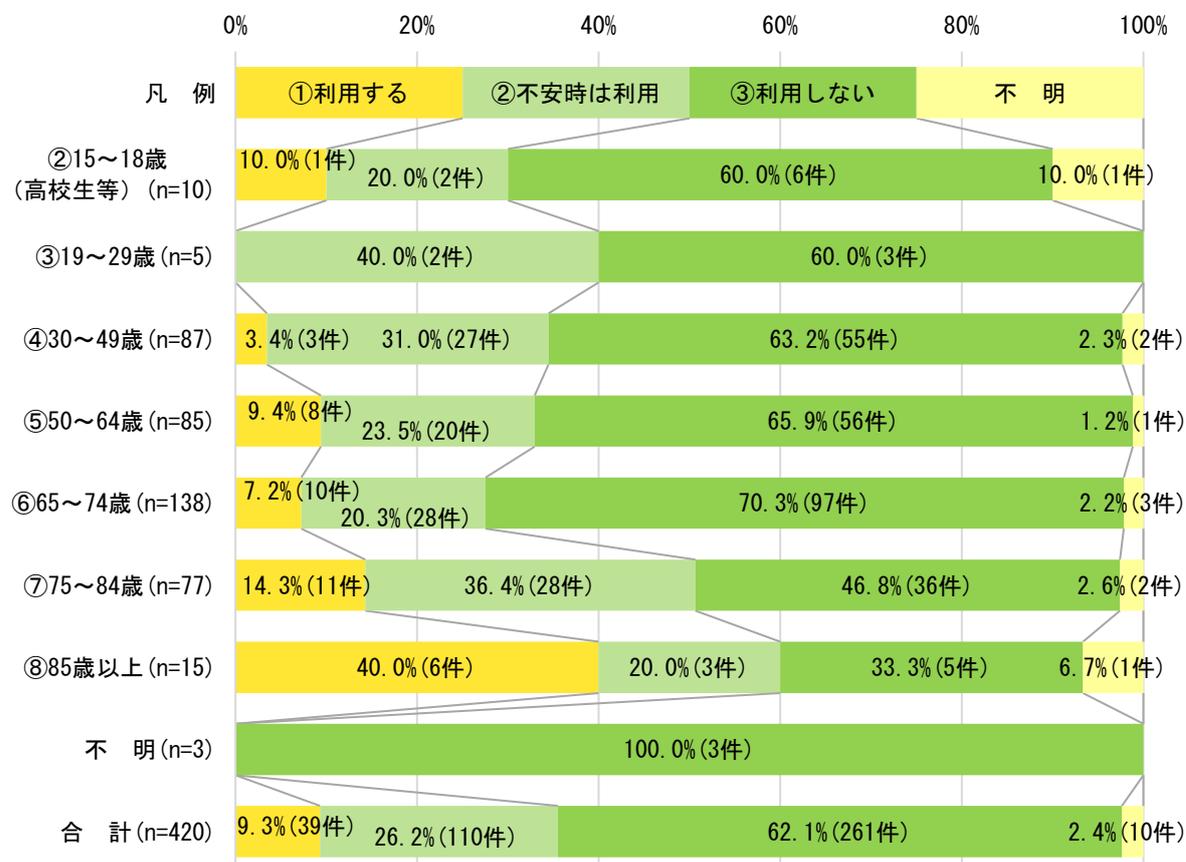


図 2-14 自宅まで行く便利な公共交通の利用（年齢別）

【自由意見の整理】

◆ 町内公共交通の必要性

- ・今は利用しないが年をとって運転できなくなれば利用する(9件)
- ・運転しているうちは利用しない(3件)
- ・地域公共交通の利便性向上が必要(2件)

◆ 求められている町内交通の内容

- ・ハイヤーの台数を増やして利用したい時に利用でき、営業時間も延長(7件)
- ・様々なサークル活動でも利用でき、主要な公共施設等にアクセスできる運行(6件)
- ・予約なしで乗車できる巡回バスの運行(6件)
- ・自宅前で乗り降りできる公共交通の運行(4件)
- ・市街地と温泉を結ぶ乗合交通の運行(2件)
- ・通院以外に買い物利用など様々な利用目的を網羅した運行(2件)
- ・利用したい時に利用できる移動手段の運行(2件)

○ 豊富高校アンケート調査

【自家用車で通学している理由】

登下校において「保護者等による自家用車での送迎」の理由は「②(公共交通機関は)登校時間に合わない」が40.0%にあたる6件と最も多くなっています。

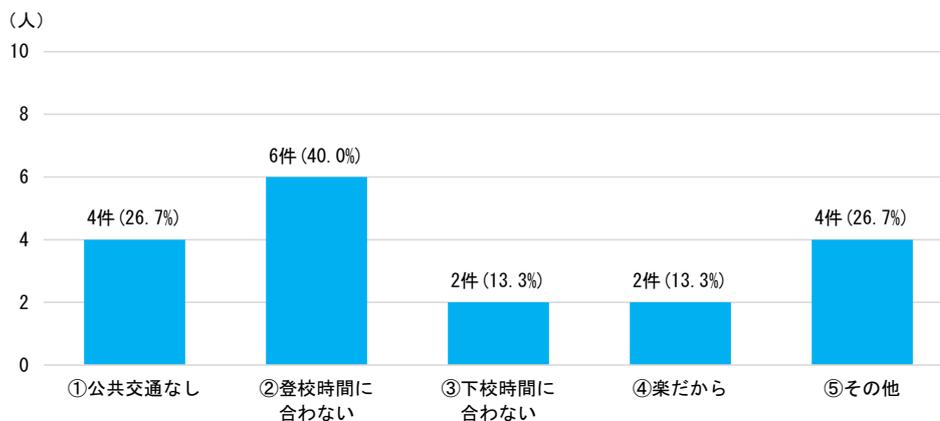


図 2-15 自家用車を使用している理由

○ 豊富温泉来訪者アンケート調査

【稚内空港からの二次交通内訳】

稚内空港からの二次交通は空港連絡バス⇒JR宗谷本線⇒バス路線が多くなっています。

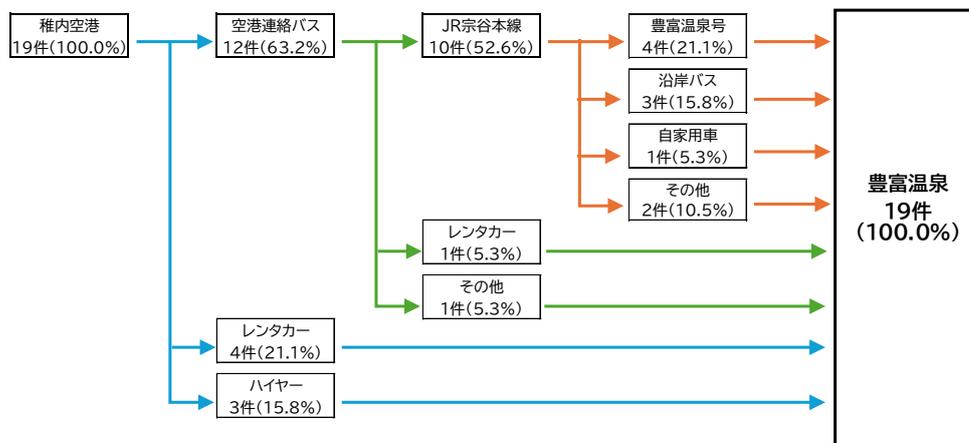


図 2-16 稚内空港からの二次交通内訳

【宿泊施設まで行く便利な交通手段】

- ・バス、無料送迎、ハイヤーによる移動手段の確保(15件)
- ・稚内空港と豊富温泉を直接結ぶ連絡交通の運行(8件)
- ・既存の公共交通の増便(6件)
- ・公共交通どうしの乗継時間の短縮化(5件)
- ・空港レンタカーの充実(4件)
- ・JR宗谷本線・沿岸バスの代替交通の確保(3件)
- ・豊富温泉とJR駅との送迎交通の運行(3件)
- ・宗谷バス空港連絡バスの周知(2件)
- ・地域全体の移動手段の情報発信(2件)
- ・乗合タクシーの運行(2件)

2-2 現状と課題

(1) 広域移動(広域生活圏)の現状と課題

ア. 町民の広域的な通勤・通学交通

- ・豊富町の広域交通は、稚内市、幌延町及び天塩町との通勤、通学交通が見られ、JR 宗谷本線や沿岸バスが運行しており、広域交通の維持が必要です。

イ. ハイヤーの適切な運行体制の確保が必要

- ・ハイヤーの台数が1台で、かつ町民からも適切なハイヤー車両台数の確保と営業時間の拡大が求められているため、適切な運行体制の確保が必要です。

ウ. 稚内空港と豊富温泉との直接アクセス

- ・稚内空港の二次交通はハイヤー利用が 2 割弱にとどまり、かつ来訪者からも豊富温泉に直接アクセスする交通手段を求められていることから、既存の定額タクシーの周知や利用しやすい運賃体系の検討が必要です。

エ. 自然災害時を考慮した補完交通の検討

- ・近年の自然災害の増加により広域的な公共交通等は一定期間の運休を余儀なくされており、JR 宗谷本線の安定的な運行が望まれるなか、広域交通を補完する交通手段の検討が必要です。

(2) 町内移動の現状と課題(通勤・通学、買物、通院、温泉等)

ア. 町内を運行する自家用有償運送や無料送迎の見直し

- ・町営ワゴン稚咲内線は乗合率と収益率が低く、豊富町観光協会豊富温泉号は路線バスと同程度のサービス水準に対して運賃が高い状況です。
- ・診療所巡回バスは買物等の日常交通に対応していくためには運行回数が少なく、町営ワゴン稚咲内線、豊富町観光協会豊富温泉号及びスクールバス一般混乗と運行ルートが重複しています。
- ・高齢者買物支援バスは買物バスとして自家用有償運送の 1.2 倍の輸送実績がある一方で、診療所巡回バスを含め年間 800 万円程度の町費が必要となっています。
- ・旅客輸送の安全性を確保するための対価としての有償化の検討が必要です。

イ. 豊富町の地理的な条件に配慮した自宅前まで行く利便性の高い交通手段の検討

- ・アンケート結果からは、自宅前や公共施設など目的施設まで行く利便性の高い交通手段について、高齢者の利用ニーズが高い状況です。

(3) 運行事業者の現状と課題(現在の町内移動を担っている事業者)

ア. 交通事業者の経営環境の悪化

- ・人口減少に伴う公共交通利用減や人件費等の高騰によって交通事業者の経営環境が悪化するため、対応が必要です。

イ. 運転免許返納者の増加に対応する地域公共交通の利便性の向上

- ・運転免許返納者数は増加傾向にあり、多くの住民が運転に何らかの不安を持つ状況のなか、公共交通の利便性向上を求める声があることから、地域公共交通の利便性向上が必要です。

ウ. ドライバーの高齢化

- ・自家用有償運送、無料送迎の運行を受託する交通事業者の運転手年齢は、60 代以上が 8 割程度を占めることから、将来における運転手の確保が必要です。

3. 計画の位置づけと区域・期間

3-1 計画の位置づけ

(1) 本計画の位置づけ

本計画は国の法制度・関連計画や北海道の上位計画を踏まえ、まちづくり計画をはじめとした本町の各計画と整合を図りながら、本町の公共交通に関するマスタープランとなる豊富町地域公共交通計画を策定します。

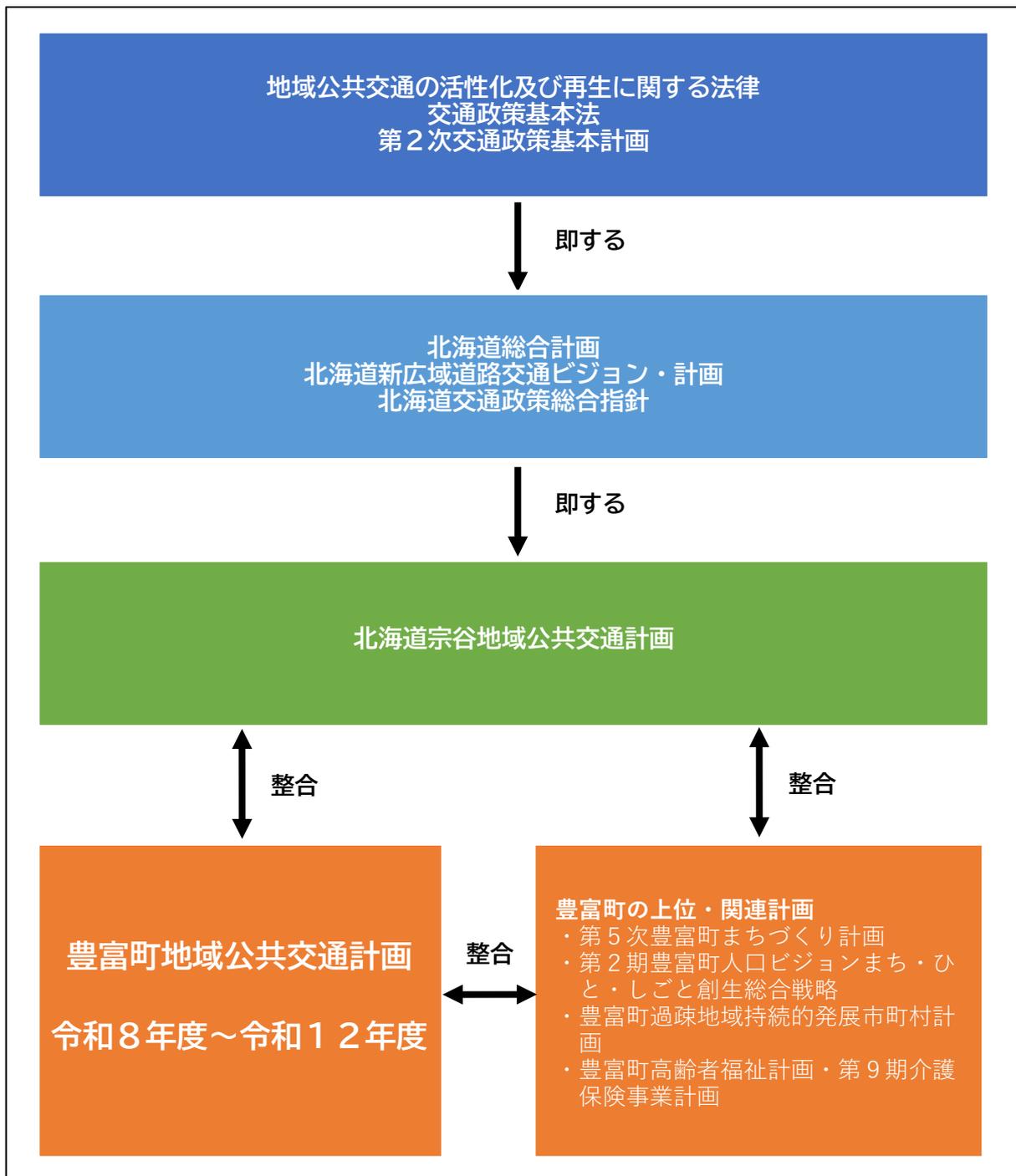


図 3-1 本計画の位置づけ

(2) 公共交通の位置づけ

上位計画である「北海道交通政策総合指針」の「北海道型公共交通ネットワークの基本イメージ」から、本町における各種交通を位置づけることにより、上位計画と整合が図られた計画を策定します。

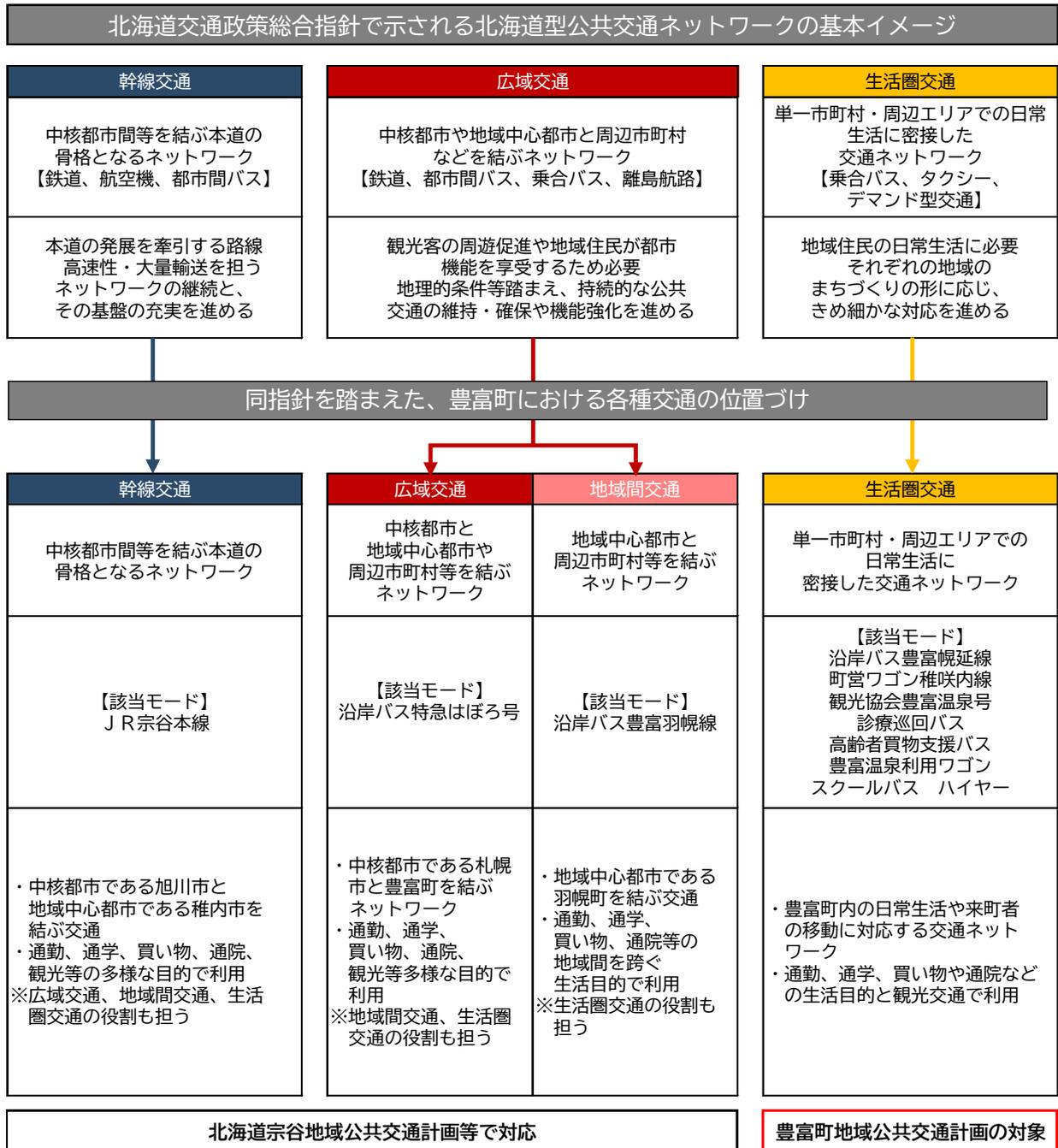


図 3-2 公共交通の位置づけ

3-2 計画区域

本計画の対象地域は豊富町全域とします。

3-3 計画の期間

本計画の期間は、2026(令和8)年度から 2030(令和 12)年度までの 5 年間とします。

4. 地域公共交通計画の策定

4-1 基本理念と基本方針

(1) 豊富町地域公共交通計画の基本理念

豊富町地域公共交通計画の基本理念は、第5次豊富町まちづくり計画の3つのまちづくり将来像のうち、「まちの価値創造」と「暮らしの充実」の2つに寄与し、3つ目の「まちを支える人づくり」に繋がっていくものとします。

ア. 第5次豊富町まちづくり計画の3つの将来像

○ まちの価値創造

産業の振興に加え、まちのポテンシャルを活かして酪農や豊富温泉、サロベツ湿原などの価値をさらに高めるとともに、まち独自の資源を活用し新たな価値を創造するまちを目指します。

○ 暮らしの充実

保健・医療・福祉などの充実や地域の支えあいにより、「子どもから高齢者までのだれもが健康で安心安全に暮らし続けることができるまち」を目指します。

○ まちを支える人づくり

子どもたちがまちに誇りを持ち、地域ぐるみで健やかに育つ環境づくりを進めるとともに、町民一人ひとりがいつでも学び、生涯にわたって心豊かに活動できるまちを目指します。

イ. 基本理念

豊富町の将来像の実現に寄与していくために、豊富町地域公共交通計画の基本理念を以下とします。

『生活・交流を支え、
豊かな暮らしの創出を目指す、豊富の交通』

(2) 豊富町地域公共交通計画の基本方針

基本理念を具体化するために、次の3つを基本方針として設定し、基本方針ごとに目標を定めます。

基本方針1:モビリティデータを活用した生活・交流を支える広域移動の確保・維持 基本方針2:町民の生活実態に即した町内移動を支える移動資源の確保・維持 基本方針3:持続可能な地域交通の確保・維持に向けた体制の充実

ア. 基本方針1:モビリティデータを活用した生活・交流を支える広域移動の確保・維持

住民及び来訪者の広域交通は北海道宗谷地域公共交通活性化協議会と連携を図り、必要に応じて運行形態等の見直しを検討・協議することで、持続可能な移動手段を確保します。

特に地域中心都市である稚内市と本町を結ぶ広域交通は、本町の実態に合わせた最適化など運行形態を検討し、持続可能な公共交通ネットワークの構築を図ります。

目標

計画目標1 町民の広域生活圏移動を支える交通の確保・維持 計画目標2 豊富温泉、サロベツ湿原等、交流を支える交通の充実
--

イ. 基本方針2:町民の生活実態に即した町内移動を支える移動資源の確保・維持

運転免許返納者の増加などの利用ニーズに対応した新たな公共交通を創出することで、公共交通への移行を促進します。

目標

計画目標3 町民ニーズに即した町内移動を支える生活交通の確保・維持 計画目標4 生活交通を支える体制の効率化、整理統合の検討

ウ. 基本方針3:持続可能な地域交通の確保・維持に向けた体制の充実

町民・交通事業者・行政が支え合うことの必要性を伝えながら、公共交通を利用する機運を醸成し、町民の公共交通の利用を促進します。

町内交通事業者の運転手の高齢化に対し、新たな運転手の確保など運行体制の充実を図ります。

目標

計画目標5 分かりやすい交通情報を発信する方法の検討・充実 計画目標6 町民一体となった連携・協力・評価体制の推進
--

(3) 公共交通の機能分担と役割、確保・維持策

基本方針に基づき、本町の公共交通ネットワークを構成する各輸送資源について、地域住民の日常生活を支える移動手段としての機能分担と役割を明確にします。また、公共交通を持続可能に運営するための具体的な確保・維持策についても、財源確保等の観点から整理します。

なお、幹線交通、広域交通・地域間交通及び生活圏交通による機能分類は、「北海道交通政策総合指針」の「北海道型公共交通ネットワークの基本イメージ」から設定します。

以上により本計画で検討の対象とする公共交通は、下表のとおりとします。

表 4-1 各公共交通の機能分担と役割、確保・維持策

機能分担	路線・系統名	役割	確保・維持策
○幹線交通	JR 宗谷本線	・中核都市である旭川市と地域中心都市である稚内市を結ぶ北海道の骨格となる交通ネットワーク	・交通事業者や沿線自治体と協議を通じて、必要に応じて支援を講じ、稚内・旭川面への地域交通を確保
○広域交通・地域間交通	沿岸バス 特急はぼろ号	・中核都市である札幌市と豊富町を結ぶ広域交通で、かつ豊富市街地と豊富温泉を結ぶ生活圏交通のネットワーク	・交通事業者による確保・維持が基本
	沿岸バス 豊富羽幌線	・地域中心都市である羽幌町と豊富町を結ぶ地域間交通	・交通事業者や沿線自治体と協議を通じ必要に応じて支援を講じて地域交通を確保
	沿岸バス 豊富幌延線	・JR 豊富駅と豊富温泉を経由して地域間幹線系統である幌延留萌線とを結ぶ地域間交通のネットワーク	・交通事業者や沿線自治体と協議を通じ必要に応じて支援を講じて地域交通を確保
【新たな 広域生活圏交通】	広域バス稚内線(仮称)	・本町と地域中心都市である稚内市を結ぶ地域間交通	・交通事業者や沿線自治体等と協議を通じて、町の一般財源を軸に持続可能な移動手段を確保
○生活圏交通	町営定期運行型 稚咲内線	・本町の中心部と交通結節点等を結ぶ基幹的な役割を担う。	・町の一般財源等のほか、国のアイヌ交付金を活用し、持続可能な移動手段を確保
	町営定期・区域運行型 豊富温泉線	・本町の中心部と交通結節点等を結ぶ基幹的な役割を担う。また路線バスが運行していない時間帯の移動を補完するとともに、温泉地区内は町民や来訪者の移動を補完する	・町の一般財源等のほか、地域公共交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)を活用し、持続可能な移動手段を確保
	町営予約運行型 公共ライドシェア	・定期運行型が利用しにくい町民や交通空白地の解消のため、公共ライドシェアとして、運行に町民も参加して移動を補完する	・町の一般財源等のほか、地域公共交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)を活用し、持続可能な移動手段を確保
	高齢者買物 支援バス 診療所巡回バス	・移動目的に特化して、町民の移動を補完する	・運行主体である社会福祉協議会等、関係機関との協議を通じて、町の一般財源も軸に、持続可能な移動手段を確保

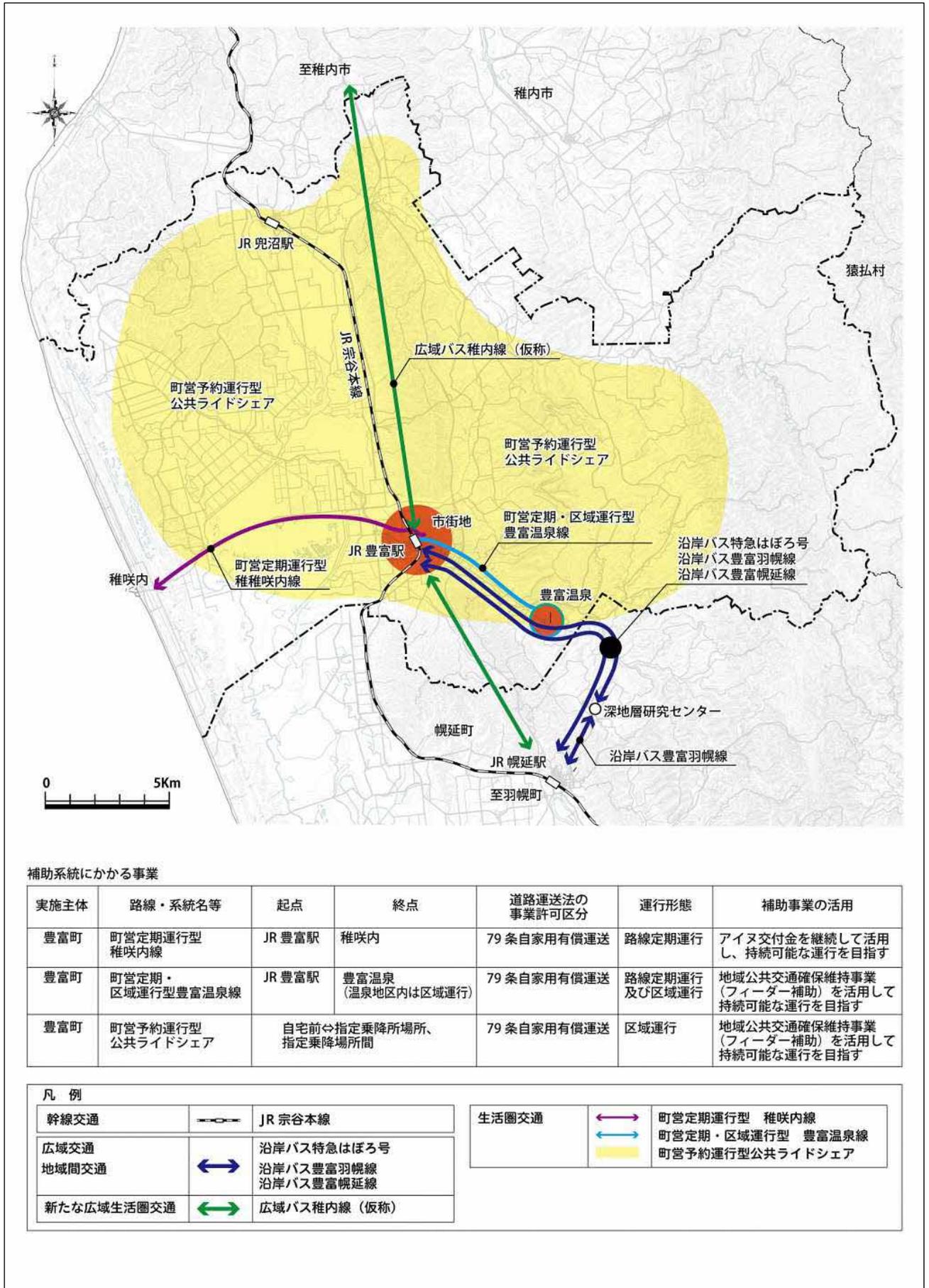


図 4-1 豊富町の公共交通体系

4-2 定量的な目標の設定

(1) 評価指標設定の考え方

基本方針を実現するために、目標ごとの評価指標を以下のとおり定めます。

表 4-2 目標ごとの評価指標の設定

基本方針	目標	評価指標
基本方針1 :モビリティデータを活用した生活・交流を支える広域移動の確保・維持	目標1 :町民の広域生活圏移動を支える交通の確保・維持	・町内公共の利用者数 ・町内公共の収支率 ・町内公共の行政負担額 ・公共交通利用ガイドブックの配付 ・住民説明会(まちづくり懇談会)開催
	目標2 :豊富温泉、サロベツ湿原等、交流を支える交通の充実	
基本方針2 :町民の生活実態に即した町内移動を支える移動資源の確保・維持	目標3 :町民ニーズに即した町内移動を支える生活交通の確保・維持	
	目標4 :生活交通を支える体制の効率化、整理統合の検討	
基本方針3 :持続可能な地域交通の確保・維持に向けた体制の充実	目標5 :分かりやすい交通情報を発信する方法の検討・充実	
	目標6 :町民一体となった連携・協力・評価体制の推進	

(2) 定量的な評価指標・目標値

令和2年11月の「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の一部改正により、地域公共交通計画においては、利用者数及び収支率その他の定量的な目標値を定めることとされています。

この点を踏まえ、目標が達成された場合の地域公共交通全体の評価指標・目標値は次のとおりです。

表 4-3 評価指標・目標値

基本方針	評価指標	令和6年度 (基準年次)	令和12年度 (目標年次)	備考
基本方針1 :モビリティデータを活用した生活・交流を支える広域移動の確保・維持	町内公共交通の利用者数	3,185人	5,000人以上	※1
	町内公共交通の収支率	3.6%	5.0%以上	※2
基本方針2 :町民の生活実態に即した町内移動を支える移動資源の確保・維持	町内公共交通の行政負担額	15,526千円	20,000千円以下	※3
基本方針3 :持続可能な地域交通の確保・維持に向けた体制の充実	公共交通利用ガイドブックの配付	0回	1回/年以上	※4
	住民説明会(まちづくり懇談会)	0回	1回/年以上	

※1: 基準年の利用者数に住民アンケートで自宅前まで行く便利な公共交通を「利用する方」等の平均外出回数と、他都市事例から「運行すればすぐにも利用する方」の比率に人口減少を加味した算定結果を参考とした設定値

※2: 町営ワゴン豊富稚内線の一人当たり料金と目標とする輸送人数により運行収益を算定し、基準年からの増加率により目標とする収益率の算定結果を参考とした設定値

※3: 基準年の行政負担額に目標年次の運行収益と地域内フィーダー系統国庫補助金を加え設定

※4: 計画に基づき取組を実施

4-3 目標を達成するために行う公共交通施策及び実施主体の設定

豊富町の現状(人口、事業者、財政等)を踏まえ、目標を達成するために計画期間の 5 年間で早急に取り組む必要がある公共交通施策に絞って実施します。なお、今後状況の変化が起こった場合(事業者の撤退等)には、随時計画の修正・変更・追加・改訂を実施することになります。

表 4-4 目標ごとの公共交通施策(総括)

基本方針	目標	公共交通施策
基本方針1 :モビリティデータを 活用した生活・交 流を支える広域移 動の確保・維持	目標1 :町民の広域生活圏移動を 支える交通の確保・維持	施策1:広域生活動線の確保
	目標2 :豊富温泉、サロベツ湿原 等、交流を支える交通の充 実	施策1:乗継円滑化
基本方針2 :町民の生活実態に 即した町内移動を 支える移動資源の 確保・維持	目標3 :町民ニーズに即した町内 移動を支える生活交通の 確保・維持	施策1:町営定期運行型稚咲内線(町営ワゴン稚 咲内線)の運行維持 施策2:豊富温泉自家用有償運行事業 施策3:公共ライドシェアの導入
	目標4 :生活交通を支える体制の 効率化、整理統合の検討	施策1:運行体制の一元化の検討
基本方針3 :持続可能な地域交 通の確保・維持に 向けた体制の充実	目標5 :分かりやすい交通情報を発 信する方法の検討・充実	施策1:公共交通乗り方ガイドの作成 施策2:公共交通乗り方教室の開催
	目標6 :町民一体となった連携・協 力・評価体制の推進	施策1:住民ドライバーの募集・支援 施策2:住民説明会による意見徴収等 施策3:法定協議会による評価・改善

(1) 基本方針1 モビリティデータを活用した生活・交流を支える広域移動の確保・維持

ア. 計画目標1 町民の広域生活圏を支える交通の確保・維持

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・広域的な公共交通は JR 宗谷本線、沿岸バス特急はぼろ号、豊富羽幌線が運行していますが、自然災害の増加により JR 宗谷本線については安定的な運行が望まれています。 ・このため稚内市や幌延町などの広域生活圏を支える JR 宗谷本線以外に、広域的なバス路線の確保を検討します。 				
事業実施イメージ	【広域生活動線の確保】施策1 ・稚内市から幌延町にいたる広域バスについて、北海道との連携により広域生活動線としての確保を検討します。				
実施エリア	豊富町、稚内市、幌延町				
実施主体	北海道、豊富町、幌延町、交通事業者				
実施スケジュール (目標年次)	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
施策1	○	○	○	○	○

○:調査・検討、●:実施

イ. 計画目標2 豊富温泉、サロベツ湿原等、交流を支える交通の充実

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・広域交通として豊富温泉やサロベツ湿原とアクセスする場合、JR 宗谷本線と町内交通等とを乗継ぐ必要があります。 ・豊富温泉とは JR 宗谷本線と沿岸バス豊富羽幌線、豊富幌延線及び豊富町観光協会豊富温泉号を乗継いでアクセスする必要がありますが、他市町村の高校登下校等の時刻に配慮しなければならないため、JRとの乗継ぎに配慮した運行時間とはなっていない状況です。 ・サロベツ湿原とは JR 宗谷本線と町営ワゴン豊富稚咲内線を乗り継いでアクセスする必要がありますが、豊富温泉と同様に乗継ぎできない運行時間となっています。 ・このため、豊富温泉やサロベツ湿原等とうの交流を支えるために、JR 宗谷本線と町内交通とが円滑に乗継げるよう交通の充実を図ります。 				
事業実施イメージ	【乗継円滑化】施策1 ・観光客等への利便性を向上して利用客を増やしていくために、JR 宗谷本線と町内公共交通間の接続を強化する乗継円滑化を行います。				
実施エリア	豊富町、稚内市				
実施主体	交通事業者、豊富町、豊富町観光協会				
実施スケジュール (目標年次)	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
施策1	●	●	●	●	●

○:調査・検討、●:実施

(2) 基本方針2 町民の生活実態に即した町内移動を支える移動資源の確保・維持

ア. 計画目標3 町民ニーズに即した町内移動を支える生活交通の確保・維持

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・町営ワゴン稚咲内線は乗合率と収益率が低く、豊富町観光協会豊富温泉号は路線バスと同程度のサービス水準に対して運賃が高い状況となっています。 ・診療所巡回バスは、買物等の日常交通に対応していくためには運行回数が少なく、他の町内交通と運行が重複する状況となっています。 ・高齢者買物支援バスは買物バスとして自家用有償運送以上の輸送実績がある一方で、運行維持費が高額で持続的な維持が難しい状況となっています。 ・住民アンケート調査では、特に高齢者において自宅や公共公益施設等に直接アクセスすることができる利便性の高い公共交通のニーズが多い状況となっています。 ・このため運行における財源的な裏づけを勘案しながら、効率的で利便性が高い公共交通へ改善することにより、町民ニーズに即した町内移動を支える生活交通を確保・維持します。 				
事業実施イメージ	<p>【町営定期運行型稚咲内線(町営ワゴン稚咲内線)の運行維持】施策1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の町営ワゴン稚咲内線について、JR 宗谷本線との接続に配慮した運行時間に改定のうえ、アイヌ政策推進交付金により運行を維持します。 <p>【豊富温泉自家用有償運行事業】施策2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の豊富温泉号について、JR 宗谷本線との接続に配慮した運行時間に改定のうえ、豊富温泉街においては宿泊施設前での直接アクセスが可能な区域運行とし、他の区間は従来路線と同様としつつ、JR 豊富駅を起終点とする町営定期・区域運行型豊富温泉線を運行します。 <p>【公共ライドシェアの導入】施策3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の診療所巡回バスと高齢者買物支援バスを改善し、ハイヤーの補完となるよう自宅と公共・公益施設等の間を乗合ながら直接運行することにより、高齢者等の利便性向上に配慮した公共ライドシェアの導入について検討します。 ・「豊富温泉自家用有償運行事業」と「公共ライドシェア」は、地域公共交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)を活用し、財源の安定的な確保・維持に努めます。 				
実施エリア	豊富町				
実施主体	豊富町、豊富町観光協会、町内交通事業者				
実施スケジュール (目標年次)	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
施策1	●	●	●	●	●
施策2	●	●	●	●	●
施策3	○	●	●	●	●

○:調査・検討、●:実施

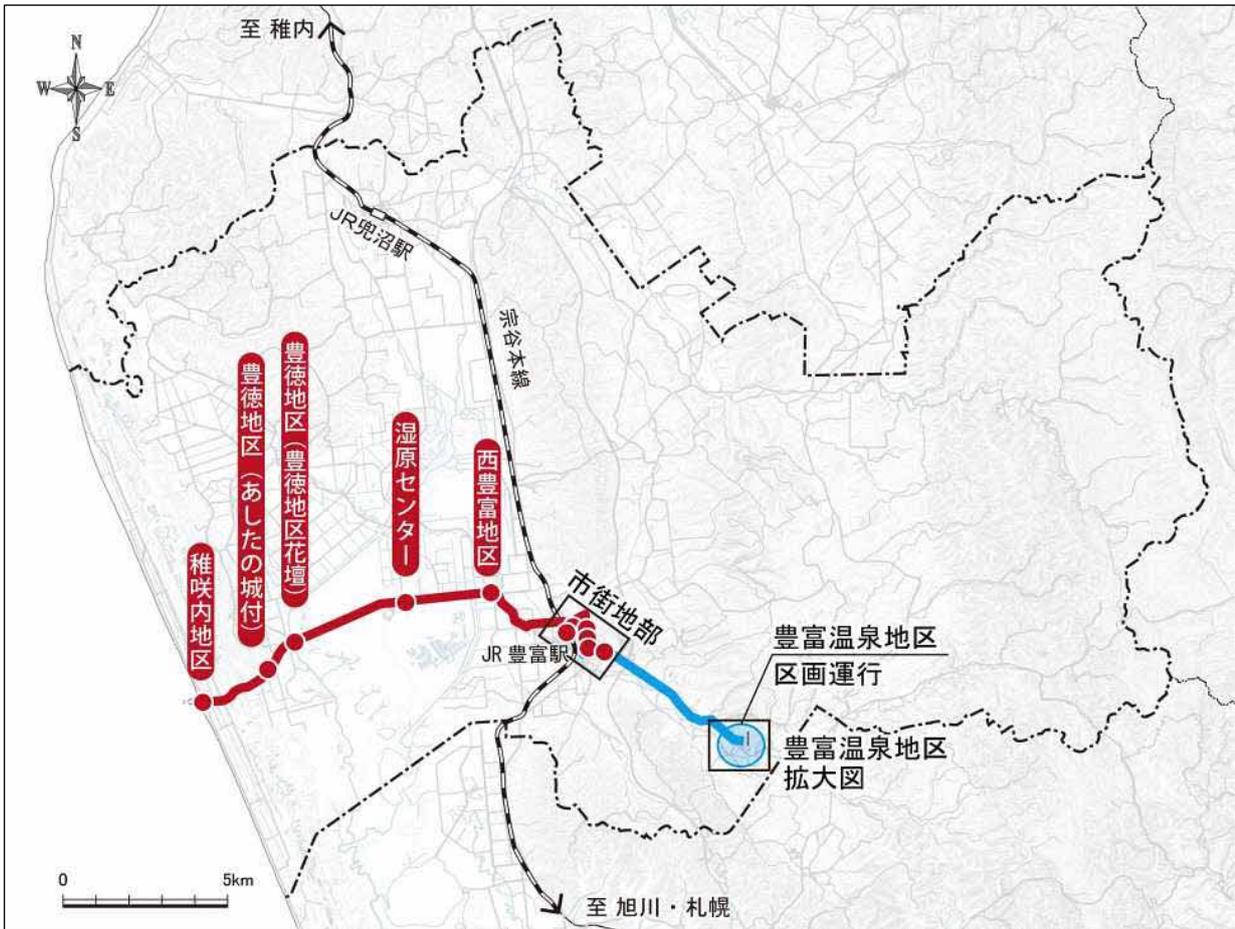


図 4-2 町営定期運行型稚咲内線(町営ワゴン稚咲内線)と豊富温泉自家用有償運行事業の運行イメージ

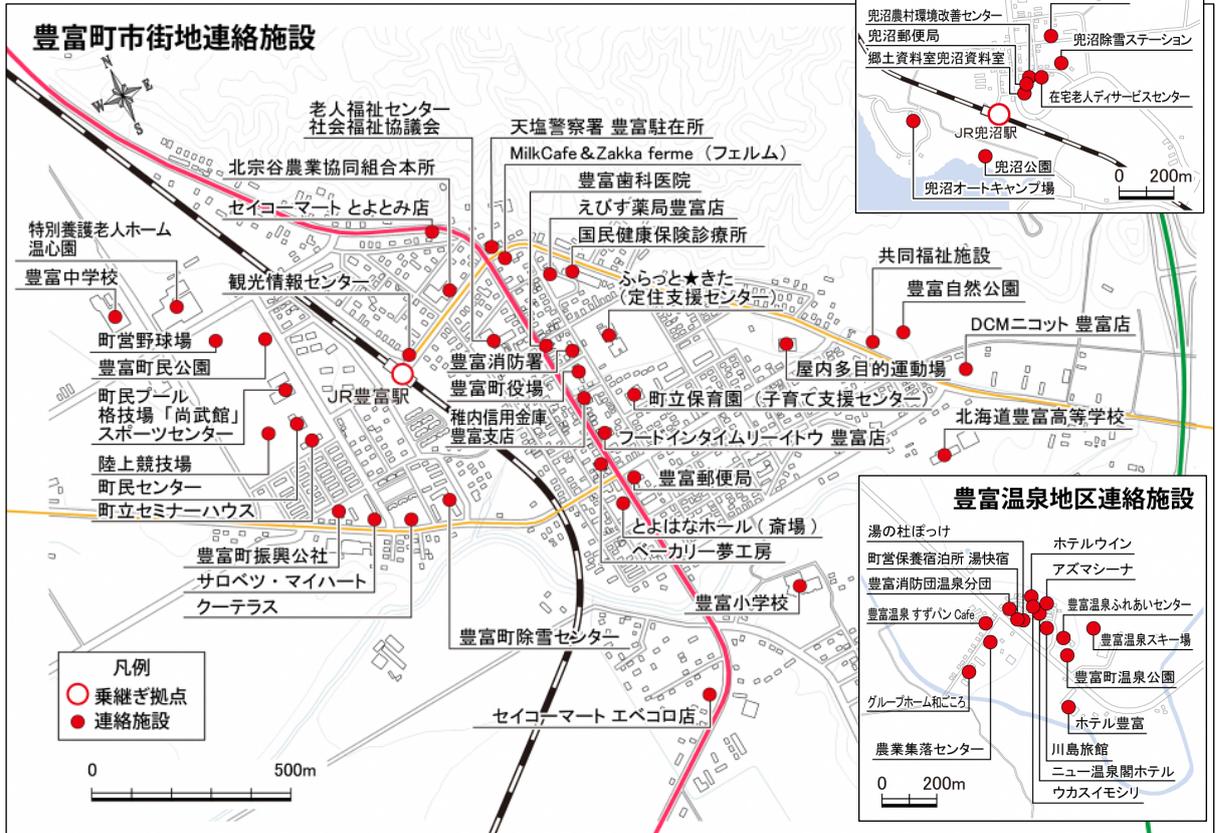
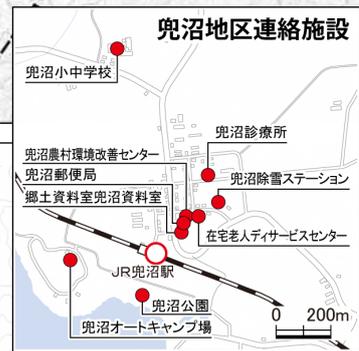
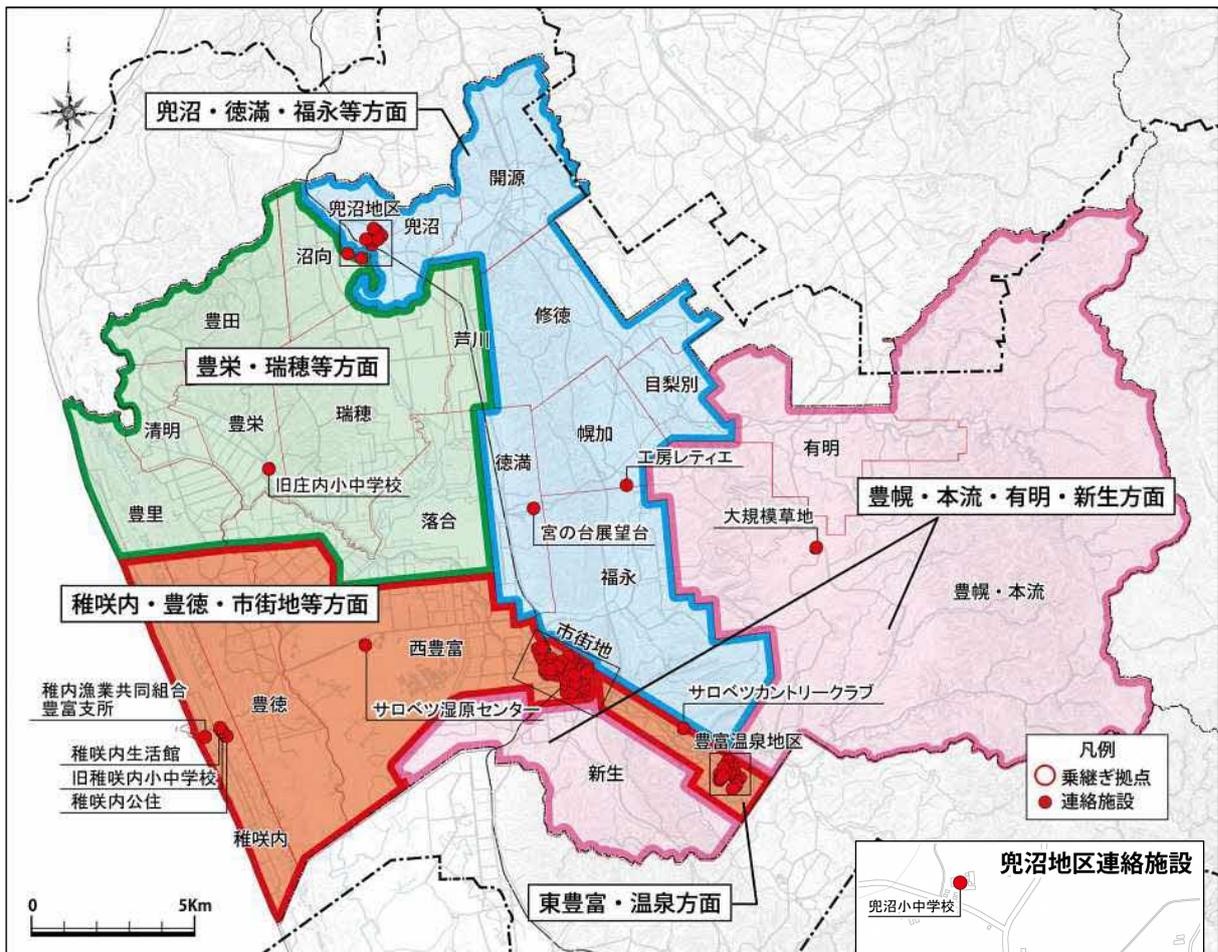


図 4-3 公共ライドシェアの運行イメージ

イ. 計画目標4 生活交通を支える体制の効率化、整理統合の検討

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・町内交通の自家用有償運送と無料送迎は、運行受託者を含めると以下に示すとおり多岐にわたります。 ▶沿岸バス(路線バス、スクールバス) ▶サロバツ交通(ハイヤー事業、町営ワゴンと豊富稚咲内線、豊富観光協会豊富温泉線、豊富温泉利用ワゴン) ▶豊富町社会福祉協議会(福祉有償運送、診療所巡回バス、高齢者買物支援バス) ・このため運行体制の一元化により、運行の効率化や整理統合を検討します。 				
事業実施イメージ	【運行体制の一元化の検討】施策1 ・町営ワゴン稚咲内線、豊富温泉自家用有償運行事業及び公共ライドシェアについて、運行体制の一元化を検討します。				
実施エリア	豊富町				
実施主体	豊富町、豊富町観光協会、町内交通事業者				
実施スケジュール (目標年次)	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
施策1	○	○	●	●	●

○:調査・検討、●:実施

(3) 基本方針3 持続可能な地域交通の確保に向けた体制の充実

ア. 基本目標5 分かりやすい交通情報を発信する方法の検討・充実

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・稚内市、幌延町及び天塩町を含めた広域交通や、町内の公共交通やスクールバス一般混乗等の町内交通について、公共交通の乗り方ガイドのホームページでの情報発信を行います。 ・また、高齢者や子どもたちを対象とした公共交通乗り方教室の開催等により、分かりやすい交通情報を発信する方法の検討・充実を行います。 				
事業実施イメージ	【公共交通乗り方ガイドの作成】施策1 ・新たな公共交通が短い期間で地域に根づいていくよう、総合的な公共交通マップ、町内交通やスクールバス一般混乗の利用方法、JR 宗谷本線や沿岸バス路線の乗継ぎ情報及び移動支援策などが記載された公共交通乗り方ガイドを作成します。 【公共交通乗り方教室の開催】施策2 ・新たな公共交通の運行時に、高齢者や小中学生を対象とした公共交通乗り方教室の開催や、一定の無料期間を設けて試験的に体験乗車会を実施するなど、公共交通に慣れ親しむ機会を提供します。				
実施エリア	豊富町				
実施主体	豊富町、交通事業者				
実施スケジュール (目標年次)	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
施策1	●	●	●	●	●
施策2	○	●	●	●	●

○:調査・検討、●:実施

イ. 基本目標6 町民一体となった連携・協力・評価体制の推進

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革や人口減少、運転手の高齢化などにより、今後、運転手不足が懸念されるなか、地域との連携や協力により人材を確保していくことが重要です。 ・新たな公共交通の運行にあたっては、利用ニーズに対応したものと改善するために、地域との連携による評価体制づくりを行います。 				
事業実施イメージ	<p>【住民ドライバーの募集・支援】施策1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の運転手の高齢化に合わせ住民ドライバーの募集を行い、空白地講習や第二種運転免許取得への助成を検討することにより、町内の公共交通の運行を担う人材へと育成します。 ・ドライバーの確保にあたっては、移住定住施策等のまちづくり施策とも連携し、地域まちづくりとして一体的に取り組を促進します。 <p>【住民説明会による意見徴収等】施策2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな公共交通の運行にあたっては、住民説明会による意見収集を行います。 <p>【法定協議会による評価・改善】施策3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行結果については豊富町地域公共交通活性化協議会を通じて、評価を行うとともに、改善方策について検討します。 				
実施エリア	豊富町				
実施主体	豊富町、法定協議会				
実施スケジュール (目標年次)	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
施策1	○	●	●	●	●
施策2	●	●	●	●	●
施策3	●	●	●	●	●

○:調査・検討、●:実施

4-4 計画の推進

(1) 計画の進行管理

公共交通施策の推進にあたっては、行政や交通事業者のみならず、住民の理解・参加・協力が不可欠です。地域一人ひとりが主体的に考えて取り組むことが重要であり、施策の推進をととして地域が一体となって地域公共交通に向き合うことが重要です。

本計画の策定後は PDCA サイクルに従い、豊富町地域公共交通活性化協議会において計画の進捗状況の確認と、検証・評価を継続的に行うものとします。

具体的には、1 年ごとに施策の実施状況の確認・評価を行い、必要に応じて事業や取組内容の見直しを行います。また、5 年後に本計画で掲げた評価指標である目標値の評価を実施し、計画全体の妥当性の確認と見直しの必要性について検証していきます。

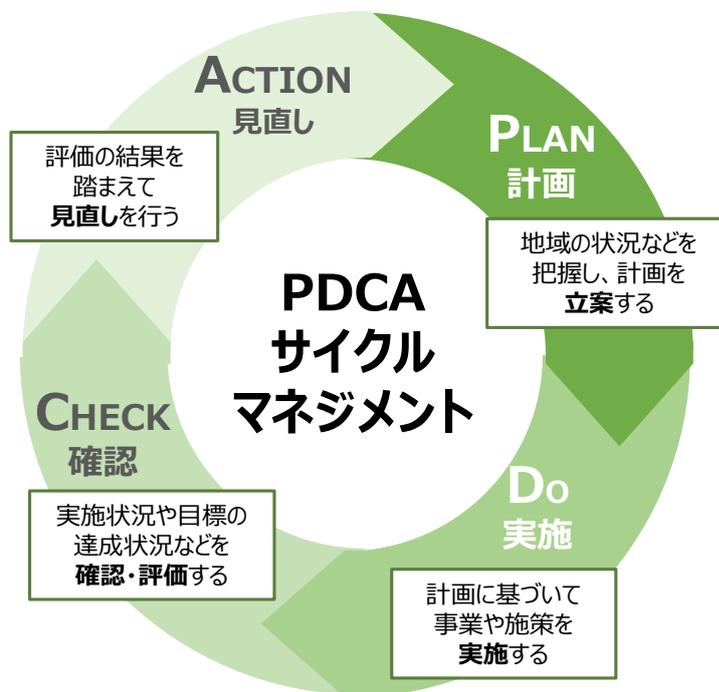


図 4-4 PDCAサイクル

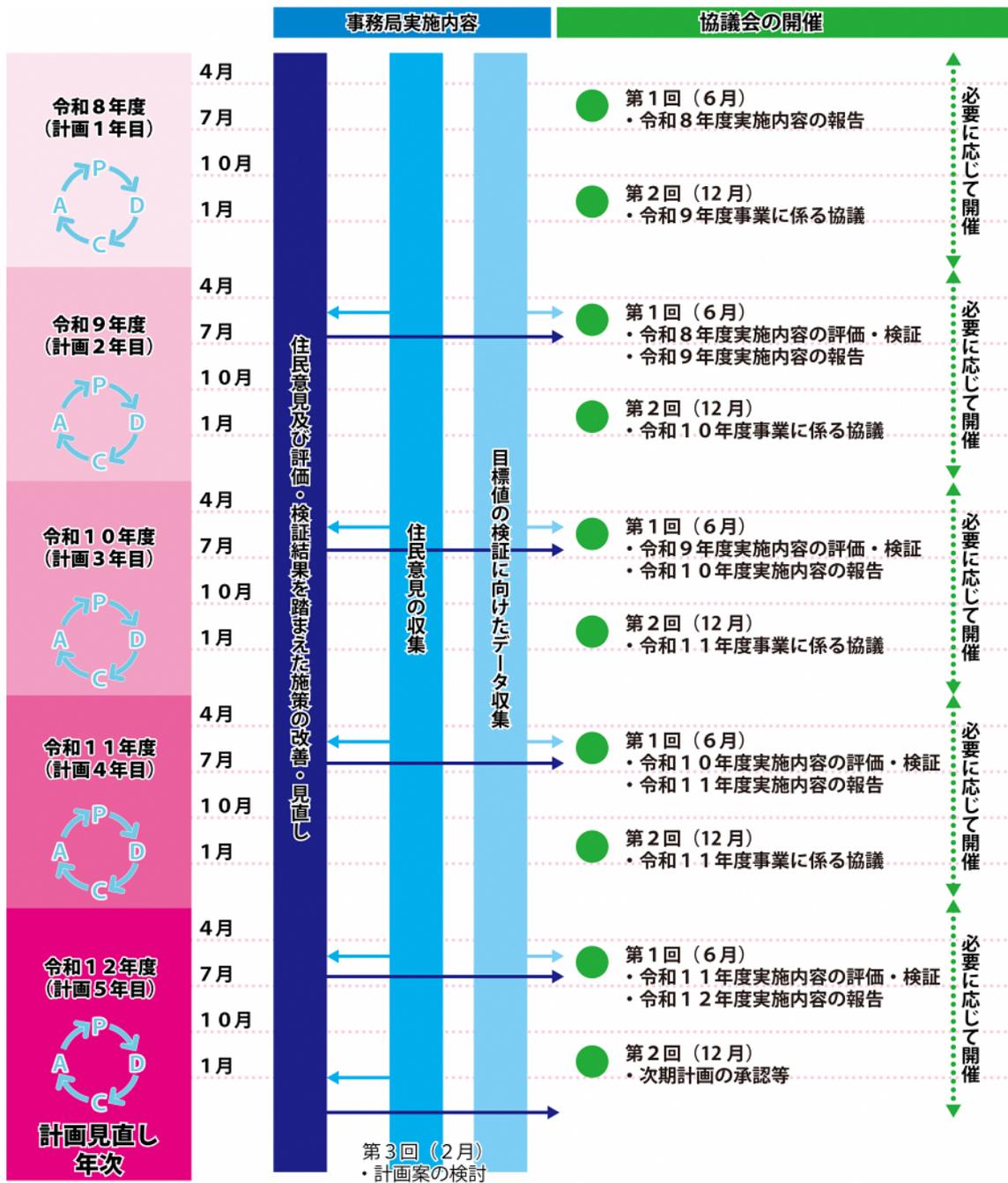


図 4-5 協議会のスケジュール (案)

(2) 達成状況の評価

1年ごとの施策の達成状況は、スケジュールに示した実施状況を確認、検証するだけでなく、町内公共交通の動向について、定量的な目標に対して評価する必要があります。1年ごとに評価するための目標値を以下のとおり設定します。

表 4-5 1年ごとの定量的な目標の設定

項目	令和6年度 (基準年次)	令和8 年度	令和9 年度	令和10 年度	令和11 年度	令和12 年度
町内交通の 輸送人数	3,185人	3,500人 以上	3,500人 以上	4,000人 以上	4,500人 以上	5,000人 以上
【目標値の測定方法】 ・毎年度の実績を運行システムの乗降データより把握し、達成状況を協議会で審議						
町内交通の 収支率	3.6%	4.0% 以上	4.0% 以上	4.5% 以上	4.5% 以上	5.0% 以上
【目標値の測定方法】 ・毎年実績を町及び交通事業者保有の決算報告等より把握し、達成状況を協議会で審議						
町内交通の 行政負担額	15,526 千円	17,000 千円以下	18,000 千円以下	18,500 千円以下	19,000 千円以下	20,000 千円以下
【目標値の測定方法】 ・毎年、町保有の歳出実績データ等に基づきとりまとめ、達成状況を協議会で審議						
公共交通利 用ガイドブ ックの配付	0回	0回	1回 以上	1回 以上	1回 以上	1回 以上
【目標値の測定方法】 ・豊富町で実施状況を把握						
住民説明会 (まちづく り懇談会)	0回	1回 以上	1回 以上	1回 以上	1回 以上	1回 以上
【目標値の測定方法】 ・豊富町で開催状況を把握						